

# 医療者と経営陣のかけ橋になり、より良い仕事や教育に適した環境づくりをめざす。

## AFTER

### 業務内容や基本事項のルールづくりを手がける

2011年4月、金丸氏はセコム医療システムに入社した。「企業の中で医師が活躍できる場があるとは本当に意外でした。医師の視点からさまざまな業務に携わり、毎日やり甲斐を感じています」

金丸氏の仕事は、主に提携病院で働く医療者の労働環境や業務内容の整備である。

たとえば、医療クレークの業務は同じ院内でも各科一様ではない。そこで業務内容を均一化し、効率を上げるためのルールづくりを開始した。業務内容の明文化は、ひいては医療の質向上につながる。 「医療の高度化により、医療安全などの基本事項についてもルール化が

重要な時代となりました」  
現場の医療者の思いを経営側の臨床経験を持つ者が受け止め改善する体制は、有効に機能するに違いない。「ルールづくりは、各病院の各科の医師や医療スタッフら医療者との交流を深めながら進めています」

### 提携病院の医師が集う研究会を定期的に開催

「入社して、医療は病院ごとに独立して行く時代ではないことを、痛感しました」と金丸氏は力説する。医療の標準化がうたわれるが、一般的に病院のしくみやシステムは各施設の独自の流儀で行われていることが多く、標準化からはほど遠い。だが、ここから生じる損失は計り知れない。金丸氏が特に注目し、提携先勤務医にとって有益だと感じているのは、同社独自の研究会の存在である。

「各病院間の医師たちの交流はとても活発で、最大の交流場所は定期的に行われる疾患別研究会です。たとえば消化器内視鏡研究会は年1回の開催で、急性期提携病院の消化器科、消化器外科の医師が一堂に集まり、議論が行われます」。今年には「肝転移を有する進行大腸癌の治療」をテーマに、東京医科大学教授の杉原健一氏の講演が予定されている。

ほかにも、整形外科、脳神経外科、循環器疾患研究会を年1回開催している。いずれも提携病院内の発表の場なので、通常の学会とは違って本音が飛び交う。

「医療者は、自身の専門性を高める職場や学びにモチベーションを見出します。医師である私は、そうした彼らの心のひだを汲み取りながら、経営陣とのかけ橋になりたいですね」

「ここからは多様な医師に出会えます。私のようにマネジメントに携わる者もいれば、産業界、臨床研修病院の指導医、回復期リハビリとケアを担当する医師、開業をめざし経営を学ぶ医師、さらにはインドなどへの海外赴任を希望する医師もいます。近い将来、提携先の医療者が「自分はセコムグループの一員」と誇りを抱いてくれたらうれし」。金丸氏は意欲に満ちた表情で即答した。

## WELCOME

セコム医療システム株式会社 常務取締役  
マネージメント・ソリューション本部長  
渡江弘幸氏

### 「ライフ・セキュリティ」として高品質な医療提供をめざす

セコム医療システムは現在、12急性期病院、6療養型病院、1有床診療所と業務提携を結び、経営と人材の両面から運営を支援している。

同社が医療分野を手がける意義を常務取締役の渡江弘幸氏に聞いた。「セコムの医療への参入を事業の多角化と捉える方もいますが、それは違います。セコムの根幹事業であるセキュリティとは、突き詰めると、ライフ・セキュリティでなければなりません。つまり、命を守る要として

当社が医療分野に取り組むのは必然なのです」

セコムグループが医療事業を開始したのは、実は20年以上も前のことだ。訪問看護サービスによる在宅医療事業および調剤薬局をスタートしたのが1999年。翌92年には久我山病院と提携、その2年後には遠隔画像診断支援サービスも開始するなど、順調に医療領域事業を拡げている。

市中の安全は警察や消防など公共サービスに支えられているが、いつでもどこでも同様の安全を約束するシステムとして、セコムはセキュリティサービスを提供している。医療についても、まったく同じアプローチだという。

「社会にはすでに病院というインフラがありますが、現状は個々の施設

長の采配に依存した医療と言えるでしょう。

医療は、標準化が難しい分野ですが、システム化を推進し、医療の質向上を加速させる発想で取り組んでいます」

### 人が行う医療こそ働きすぎない労務管理を

渡江氏は以前、提携先の医療機関に出向した際、ビジネスマンと医療者との間の大きき決定の差を、目の当たりにしたという。

「企業の労務管理は、社員がいかに責任を持って働いてもらうかが基本ですが、医療者は、いかに責任に潰されないようにするかが課題。優秀な医療者が燃え尽きることなく長く活躍できれば、医療の質は確実に向

上します。

金丸先生には、臨床と経営の両方の視点から職場環境の整備をしていただきたいと期待しています」

加えて、医療分野の人材育成にも新しい姿勢で意思決定はもちろぬ、人材登用の意思決定はもちろぬ、育成についても企業と同様の方法を用います。そうした手法で各医療機関の標準化を進めれば、当グループの強みにより明確になるはずだ」

組織の中で、能力を公平に評価されるしくみができれば、医療者自身のモチベーションアップも図れるだろう。

「いずれは「セコム」と言えば医療」と言われるようになりたいですね。すべきことは多々ありますが、優秀な医療者による良質な医療の実現に向かって前進する覚悟です」



渡江弘幸氏  
Hiroyuki Shibue  
セコム医療システム株式会社 常務取締役  
マネージメント・ソリューション本部長

1981年慶應義塾大学法学部卒業、日本警備保障(現セコム)株式会社入社。84年米国にてMBA取得、セコム医療領域配属。96年セコムオーストラリア(株)代表取締役社長。2000年再び医療領域に。01年医療法人深仁会(07年同常務理事)。10年(株)マック(セコム子会社・医療系)常務取締役。12年セコム医療システム(株)取締役病院支援本部長、13年1期現職。

### セコム医療システム株式会社



主な業務は、訪問介護、有料老人ホーム、電子カルテ事業や遠隔画像診断支援、訪問看護、病院運営支援など。経営面のサポートに加え、医療安全、感染管理部などの研究会、提携病院医師による疾患別研究会、医師リーダーシップ研修会等を通じ、医療・組織の質を高める活動に注力。提携医療機関19施設(合計)、病床約5,600、常勤医師約800名、看護師約3,800名。

#### 【提携医療機関】

- 医療法人深仁会札幌西田山病院
- 医療法人深仁会定山病院
- 医療法人深仁会手稲区仁会病院
- 医療法人社団誠善会旭南病院
- 医療法人社団誠善会千葉中央メディカルセンター
- 医療法人社団誠善会セコムメディック病院
- 医療法人社団誠善会新東宮病院
- 医療法人社団誠善会千葉メディカルセンター
- 医療法人社団誠善会船橋市立リハビリテーション病院
- 社会福祉法人昭和会久我山病院
- 医療法人社団昭和会切羽リハビリテーション病院
- 医療法人財団 医療院
- 医療法人財団 あんしん会 西谷メディカルクリニック
- 医療法人財団 神楽坂明会横浜法医学総合病院
- 医療法人社団三善会神楽坂明会病院
- 医療法人財団三善会横浜新緑総合病院
- 医療法人財団 友愛会病院
- 医療法人財団 聖心ベリタス病院
- 医療法人財団 神戸海星病院

【平成25年3月31日現在】



MHAを取得した兵庫県立大学大学院経営研究科の卒業式。約1年半の勉強を通じ、驚くほど視野が広がったという。

#### 【金丸氏のキャリアの軌跡】

- 兵庫県出身
- 1981年 神戸大学医学部卒業
  - 1981年 同大学第一外科入局
  - 1987年 同大学院卒業(外科学専攻)
  - 1987年 総合病院聖隷三方原病院外科部長
  - 1991年 加古川市民病院(現・加古川西市民病院)外科部長
  - 1991年 神戸大学医学部第一外科
  - 1991年 本庄第一病院国内留学(胆膵膵トレーニング)
  - 1994年 神戸市救急救命士養成所副所長
  - 1998年 神戸労災病院外科部長
  - 2010年 神戸海星病院外科部長
  - 2011年 セコム医療システム株式会社入社